

# サステナビリティ・ミーティング2023



2024年2月21日  
アステラス製薬株式会社

この資料に記載されている現在の計画、予想、戦略、想定に関する記述およびその他の過去の事実ではない記述は、アステラス製薬の業績等に関する将来の見通しです。これらの記述は経営陣の現在入手可能な情報に基づく見積りや想定によるものであり、既知および未知リスクと不確実な要素を含んでいます。様々な要因によって、これら将来の見通しは実際の結果と大きく異なる可能性があります。その要因としては、(i) 医薬品市場における事業環境の変化および関係法規制の改正、(ii) 為替レートの変動、(iii) 新製品発売の遅延、(iv) 新製品および既存品の販売活動において期待した成果を得られない可能性、(v) 競争力のある新薬を継続的に生み出すことができない可能性、(vi) 第三者による知的財産の侵害等がありますが、これらに限定されるものではありません。また、この資料に含まれている医薬品(開発中のものを含む)に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。開発中の化合物に関する情報は、その化合物の確立された安全性や有効性を示唆するものではなく、開発中の化合物が承認を受けたり、開発中の用途で上市されることを保証するものでもありません。

# 社会とアステラスのサステナビリティ向上



代表取締役社長CEO  
岡村 直樹

# 私にとってのサステナビリティ

～ケニアにおける産科フィスチュラ<sup>1</sup>治療を促進するプロジェクト(Action on Fistula<sup>TM</sup> <sup>2</sup>)を通じて～

## 2010年代のCorporate Social Responsibility(CSR)

本業と関連がないCSRが主流であり、寄付などの社会貢献活動に重点が置かれていた

### 当時感じていたこと

- 関連財団を通じた活動支援だけでなく、直接関与しアステラスの**事業活動の一部**として行いたい
- アステラスの**知見やケイパビリティを活かしたい**
- 持続的な仕組みを作るには、資金を提供するだけでなく取り組む内容に直接関与できる**プロジェクト型の協働**が必要

2014年

## ケイパビリティ・知見を活かしたプロジェクトへの挑戦

### 「Action on Fistula<sup>TM</sup>」プロジェクトをFistula財団との協働で開始

- 予算問題に直面したが、業務を効率化して資金を捻出
- ケニアの女性の人生を大きく変えるために使われるという考えに従業員も賛同
- 医師の育成や病院のネットワーク構築に注力、ケニア内でフィスチュラ手術ができる医師の人数が持続的に増加
- 社会復帰のための経済支援・就労支援・心のケアを行うサポートグループを設立

### ケニアの女性の人生を大きく変えるプロジェクトに発展

3年間で1,200人を目標としていたが、最終的に**6年間で6,223人**の患者さんに治療を提供

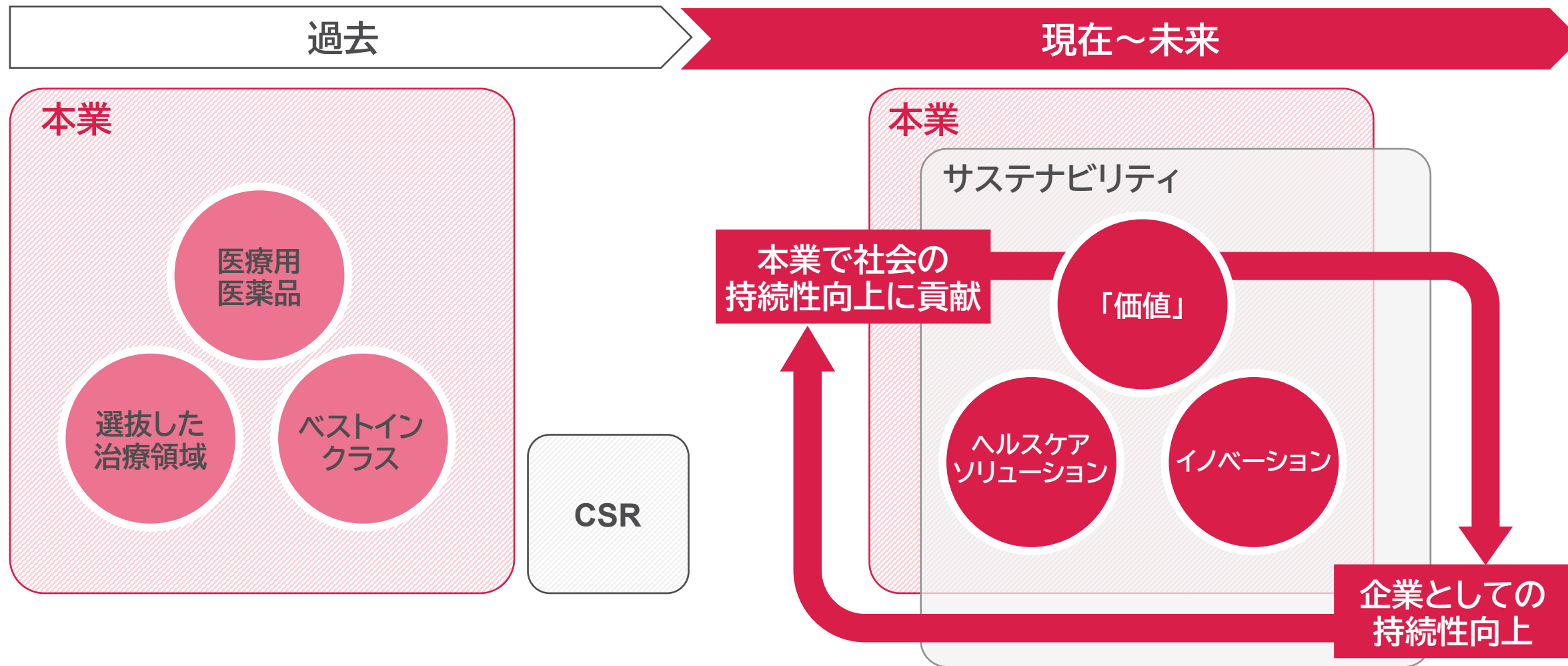


© Georgina Goodwin

1:産科フィスチュラ:膣と直腸、または膀胱の間に形成される孔で、排泄物が絶えず身体から漏れ出る原因となる。一般に、緊急医療を利用できない状況で長期にわたり分娩が停止することにより引き起こされ、潰瘍や腎疾患、脚部の神経損傷などの慢性的な問題を誘発する場合もある

2:Action on Fistula<sup>TM</sup>:フィスチュラ基金が立ち上げた取り組み。2014年に開始され、アステラスの欧州子会社であるアステラス ファーマ ヨーロッパ Ltd.がフィスチュラ基金に資金を拠出した。2014年から2017年の第1段階では、フィスチュラ基金とアステラスが共同で資金を拠出し、2017年から2020年までの第2段階では、プログラム全体の約25%の資金をアステラスが拠出した

# アステラスが考えるサステナビリティ



# 本業を通じた社会課題への貢献 - VEOZAH(fezolinetant)の社会的インパクト -

6

## VMS (血管運動神経症状)

女性が閉経に伴い経験する最も一般的な症状<sup>1</sup>

- 閉経女性では平均**17回/週**のホットフラッシュ、**11回/週**の寝汗を経験<sup>2</sup>
- VMSを有する女性の約**65%**が睡眠に関する問題を報告<sup>3</sup>
- VMSの重症度が増すほど、睡眠に関する問題、日中の活動や労働生産性に与える影響が深刻化する<sup>4</sup>
- 米国では**70%以上**の女性がVMS未治療<sup>5</sup>

## VEOZAHがもたらす様々な価値



### 科学的価値

- 閉経に伴うVMSに対し承認された初の**非ホルモン性NK3受容体拮抗薬**<sup>6</sup>

### 医療的価値

- 中等度から重度のVMSにおいて**頻度と重症度を持続的に減少**<sup>7,8</sup>

### 経済的価値

- 労働生産性の向上、睡眠障害等の軽減、関連する生活の質(QOL)指標の改善**<sup>9,10</sup>

### 心理的価値

- 閉経に伴うVMSとその治療に対する**認知と理解の向上**<sup>11</sup>

VEOZAHにより、中等度から重度のVMSに悩む女性の負担を軽減し、QOL及び労働生産性の向上へ貢献する

VMS (Vasomotor Symptoms): 血管運動神経症状(顔のほてり・のぼせ等(ホットフラッシュ)や寝汗)、NK3: ニューロキニン3、QOL: Quality of life

VEOZAH: 欧州ではVEOZAの製品名で承認取得

1~11の注釈についてはAppendixスライド36をご参照ください



# アジェンダ

I サステナビリティ向上に向けた取り組みの進捗

サステナビリティ部門長  
飯野 伸吾

II 人材と組織

人事・コンプライアンス担当(CPO & CECO)  
杉田 勝好

III 最高経営責任者(CEO)のサクセッションプランニング

社外取締役  
田中 孝司

# サステナビリティ向上に向けた取り組みの進捗



サステナビリティ部門長  
飯野 伸吾



# サステナビリティ向上に向けた取り組み

2021年度

- マテリアリティ・マトリックスの改定により、19の重要課題を選定  
そのうち、9つを最重要課題(マテリアリティ)として特定

2022年度

- 9つの最重要課題、社会からの要請の高い環境に関する2つの重要課題に取り組むための指針として、サステナビリティ方針を策定
- 7つの中期優先項目と7つのコミットメントを設定

2023年度

- 中期優先項目の進捗を測るための約50の指標を設定し、全社的取り組み事項として年度計画に反映

# 保健医療へのアクセス向上に向けた取り組み

## 1. アステラスのコアビジネス (Rx、Rx+)

革新的な新薬の創出と提供

アステラス製品<sup>1</sup>を  
処方された累計患者 (推定)

**1億5,950**万人以上 **103**か国

(2023年度上期までの実績)

## 2. アステラス製品の入手可能性の向上

早期アクセスプログラム

パドセブ、ゾスパタ、  
ゾルバツキシマブの累計

**2,500**以上の  
リクエストを承認 **1,000**人以上  
早期治療へのアクセスを受けた患者 **40**か国以上

臨床試験後アクセスプログラム<sup>2</sup>

患者アクセスイニシアチブ<sup>3</sup>

約**250**人のがん患者 **30**か国以上 **50**人以上 **25**か国以上

International Pharmacy Program (IPP)<sup>4</sup>

**80**人以上 **19**か国以上

2021年5月にパドセブのIPPが開始され、治療を受けられるようになった患者 (IPPはパドセブが特定の1か国以上で承認以降に開始)

(2023年度上期までの実績)

## 3. 外部パートナーまたは財団が実施する 保健医療へのアクセス向上に向けた活動の協働・支援

ヘルスケアシステム強化プログラム \*

**4**か国にてがん疾患に関わる  
ヘルスケアシステム強化のための  
プログラムを実施中 **800**万人以上  
想定インパクト

デジタルテクノロジーを活用した  
ヘルスリテラシー向上の取り組み

**1,000**人以上がプログラム提供開始後  
約1か月間で利用<sup>5</sup>

パシエント・セントリシティ プログラム

**100**以上の患者アドボカシー  
/患者組織プログラム支援 **2,000**万人以上  
想定インパクト

医療教育プログラム

**100**件以上の教育助成  
学会等への助成による各種  
教育プログラムを通じた医療  
従事者への学習機会の提供

想定インパクト

**26.2**万人以上の学習者

グローバルヘルスへの貢献

住血吸虫症に対する  
小児用治療選択肢の開発

コンソーシアムの 欧州医薬品庁から  
一員として技術や 肯定的な科学的  
ノウハウを供与 見解を受領 **1,200**万人の就学前  
2030年までに  
児童へ新たな治療選択肢を提供<sup>6</sup>  
想定インパクト

アステラス・グローバルヘルス財団 \*

2018年より、保健医療へのアクセス向上、強靱なコミュニティの  
構築、災害支援に焦点を当てた**21**の慈善活動を支援

想定インパクト

**3,200**万人以上

1: ハルナール、ベシケア、ミラベグロン、プログラフィ、イクスタンジ、ゾスパタ、エベレンゾ、パドセブ、2: 治験終了後もアステラス製品で治療を継続している患者 (治験終了後、患者に継続的な有用性が認められた場合に治療を継続)、

3: アステラス製品の承認後から保険収載前あるいは承認以降に患者アクセスイニシアチブを通じて経済的に支援した患者、4: まだ承認取得されていない国で承認取得前のアステラス製品へのアクセスを提供するプログラム、

5: 2023年12月末時点、6: <https://www.pediatricpraziquantelconsortium.org/>

# 保健医療へのアクセス向上に向けた取り組み事例

## 住血吸虫症に対する小児用治療選択肢の開発により 顧みられない熱帯病の撲滅に貢献

- アステラスは小児用プラジカンテル・コンソーシアム<sup>1</sup>の一員として製剤技術やノウハウを供与
- 就学前児童における住血吸虫症の新たな治療選択肢として欧州医薬品庁から肯定的な科学的見解を受領<sup>2</sup>



## Astellas Healthcare E-city™の開発により ヘルスリテラシー向上に貢献

- ブラジルのテクノロジースタートアップ企業(Pixit)と連携し、仮想現実空間「Astellas Healthcare E-city™」を開発<sup>3</sup>
- ブラジルの州立大学(Universidade de São Paulo)の専門医監修による、胃がんの早期診断と予防に関する教育コンテンツを提供



1: 国際的な官民パートナーシップで、住血吸虫症に感染した就学前児童の保健医療アクセスを改善することにより、住血吸虫症という世界的な疾病による苦痛を軽減することを目的とする。政府、アカデミア、製薬企業など11団体から構成されている。 <https://www.pediatricpraziquantelconsortium.org/>、2: 2023年12月18日付プレスリリース <https://www.astellas.com/jp/news/28791>、3: <https://www.astellas.com/jp/sustainability/astellas-healthcare-e-city>

An aerial photograph of a resort complex nestled in a lush green valley. In the background, a large, rugged mountain peak is covered in snow under a clear blue sky. The resort features several modern, white buildings with curved roofs, interspersed with numerous cherry blossom trees in full bloom. A winding path and a small pond with a bridge are also visible within the resort grounds.

[動画はこちら](#)

# 地政学的リスク、自然災害に対するBCPの強化

予測困難なリスクを早期に認識し対策を講じることで、製品をタイムリーに、効率的かつ持続的に供給

## 認識しているリスク

地域紛争、自然災害、感染症のパンデミックによる

- サプライチェーンの分断
- 都市のロックダウン
- 原材料の供給不安
- エネルギー不足、コストの高騰

## リスクへの対応

### 持続可能な製造

#### 安定的な原材料の確保

- 地政学的リスクの増大に伴い、入手が困難になる可能性のある原材料他を特定
- 主要製品において、原材料他の代替品の確保、将来の未知のリスクに備えた在庫の積み増しを継続



### 製品の安定供給

#### サプライチェーンリスクへの対応

- シームレスな流通実現のためにパートナーと協力。短期間での代替ルートの確保等により、供給を維持(含むウクライナ/ロシア、イスラエル/ガザ)
- 世界各地域の需要予測や在庫情報、供給計画を一元的に管理する体制を構築し、安定供給体制を強化

# 環境のサステナビリティ向上に向けた取り組み

## 環境行動計画(気候変動対策) <2023年1月SBT再認証>

### GHG排出量(スコープ1+2)

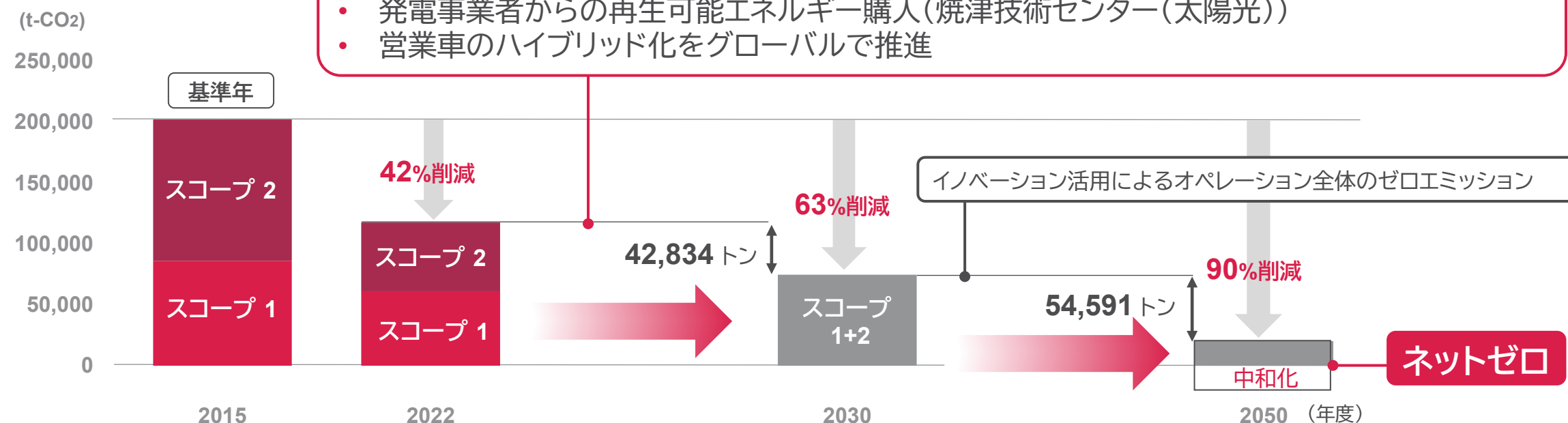
基準年 2015年度  
 基準年の排出量 202千トン  
 指標 「1.5°C目標」

### GHG排出量(スコープ3)

基準年 2015年度  
 指標 「well-below 2°C目標」

### GHG排出削減目標達成に向けた取り組み

十分な情報にもとづいた輸送手段の決定とサプライヤーへのGHG排出量削減に向けたエンゲージメント



GHG (greenhouse gas): 温室効果ガス、SBT: Science Based Targets

# 人材と組織



人事・コンプライアンス担当(CPO & CECO)  
杉田 勝好

# 経営戦略に沿った人材戦略(組織健全性目標:OHG)

## 経営戦略と人材戦略との連動

## 人材戦略とKPIとの連動



### OHGの浸透による カルチャー変革

- 浸透による効果①  
ビジネスにおけるイノベーション創出
- 浸透による効果②  
従業員エンゲージメント

### 経営計画2021の実行を加速する 人材の採用・配置・育成

- サクセッションプランニング



# OHG浸透によるアウトカム① ビジネスにおけるイノベーション創出

OHG浸透の成果を**従業員の行動変容**という形で確認

## 事例1 OASIS (One-Astellas Idea Developers)

- 従業員が自発的かつ部門横断的に協働したアステラスならではの創薬を目指すプロジェクト
- 取り組みはグローバルに展開



## 事例2 デジタルイノベーションコンテスト

- デジタル部門がリードする、DXをビジネスに活用するアイデアの全社オーディション
- 金賞を受賞したアイデアはパイロット実施中



### イノベーション創出を支える施策

#### 会議のcost-benefit分析

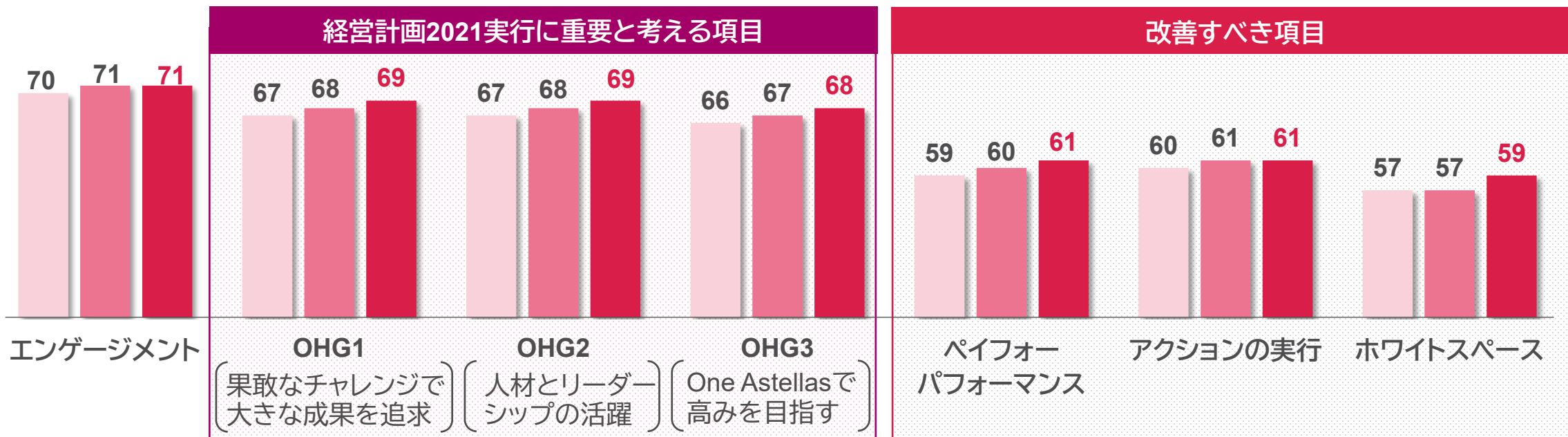
社内会議にかかるコスト(時間、人件費)に見合った成果が出ているか  
分析結果の共有により、過不足ないメンバーによる意思決定を促進

▶ ホワイトスペースを  
増加させ、イノベーション  
創出を目指す

## OHG浸透によるアウトカム② グローバル・エンゲージメント・サーベイ

設問ごとにサーベイ結果を分析し、OHGの全項目について継続的な改善を確認  
改善すべき項目を特定し、具体的なアクションを実行

2022年1月 2022年10月 2023年10月



### 改善すべき項目へのアクション

パイフォー  
パフォーマンス

新しい評価システムの  
導入によるパフォーマンスの差別化

アクション  
の実行

すべてのピープルマネジャー  
による、サーベイ結果に応じた  
行動の義務付け

ホワイト  
スペース

・会議とレポートの削減  
・トレーニングへの参加

# サクセッションプランニング - 経営計画2021に沿った人材戦略 -

## 経営計画2021を実行するために必要なリーダー像

変革的リーダーシップ

Transformational Leadership

結果志向

Result Driven

グローバル・マインドセット

Global Mindset

### アステラスのサクセッションプランニングの特徴 (対象:部門長クラス以上)

1 完全なグローバル統合プラン

**100%**  
Divisions participated in  
VP+ Succession Planning

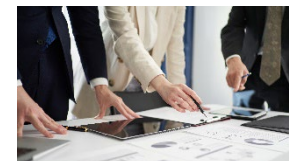
2 社内外問わず  
最適な人材を後継者候補に



3 完全な自由競争による人材配置

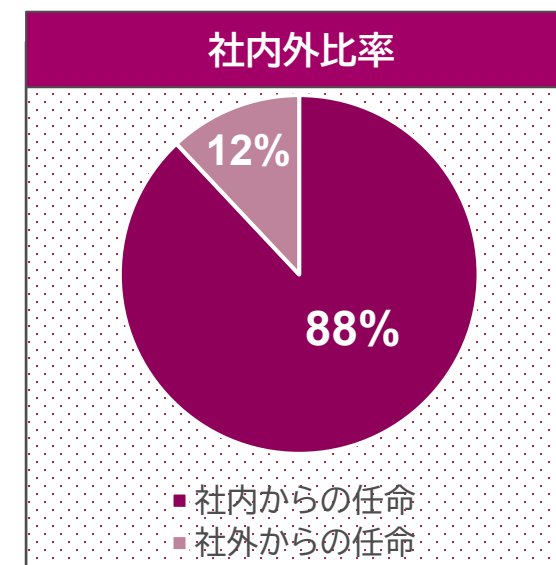
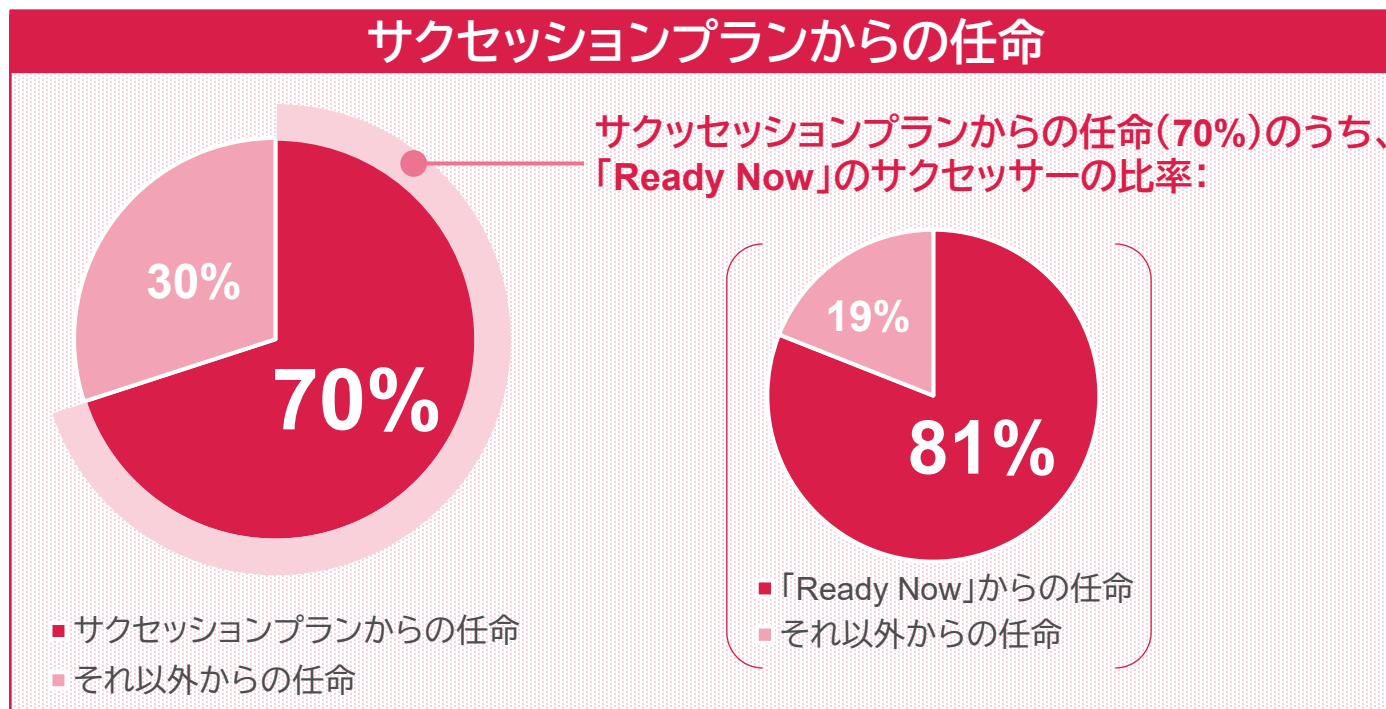


4 毎年の見直しにより常に最適な  
人材による適所適材を実現



# サクセッションプランニング - 運用状況:部門長クラスへの任命 (2023年度) -

- 新たに就任したタレントの半数以上をサクセッションプランから任命
- 外部採用も含め幅広い視野で最適なタレントを適所適材で配置



**Ready Now**

求められるポジションに必要な専門知識とリーダーシップを備えている

**Ready 1-2 Years**

求められるポジションに必要な専門知識とリーダーシップの両方またはいずれかを成長させる必要がある

**Ready 3-5 Years**

求められるポジションに就く潜在的な能力を有しているが、さらなる専門知識とリーダーシップを成長させる必要がある

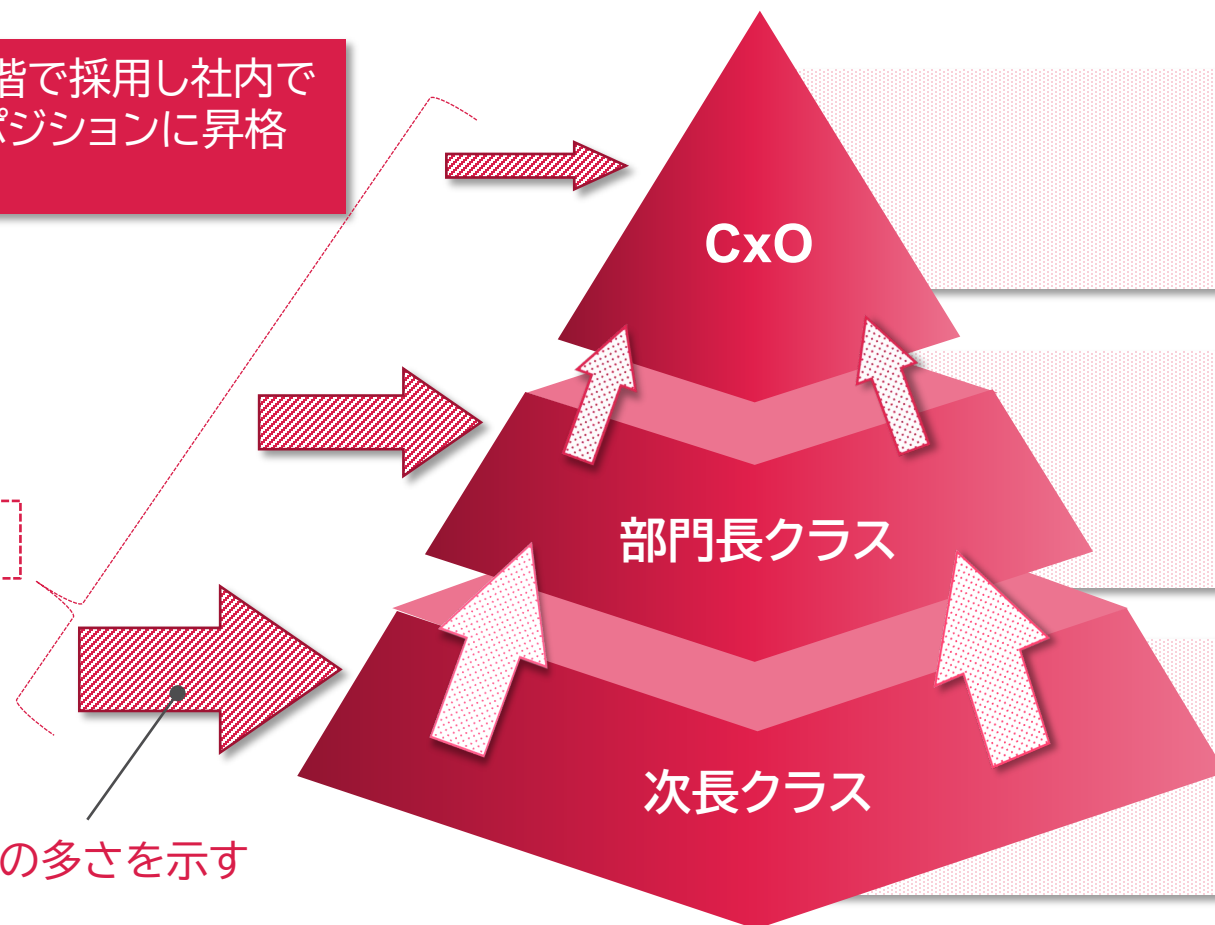
## サクセッションプランニング - 育成方針 -

- トレーニングに加え実務を通じた育成を基本とし、グローバルで一貫した体制を構築
- 社内外問わずタレントのパイプラインをさらに強化

✓ できるだけ早い段階で採用し社内で育成後、より上のポジションに昇格させる

社外採用

矢印の太さが人数の多さを示す



➤ サクセッションプランニングからの任命が中心

➤ CxO候補になる外部タレントを早い段階で採用  
➤ 社内で部門長クラスの経験を通して育成

➤ 部門長クラス以上の候補の外部タレントを早い段階で採用  
➤ 社内で実務の経験を通して育成

# 経営戦略に沿った人材戦略(組織健全性目標:OHG)

## 経営戦略と人材戦略との連動

## 人材戦略とKPIとの連動



### OHGの浸透による カルチャー変革

- 浸透による効果①  
ビジネスにおけるイノベーション創出
- 浸透による効果②  
従業員エンゲージメント

### 経営計画2021の実行を加速する 人材の採用・配置・育成

- サクセッションプランニング

# 最高経営責任者(CEO)のサクセSSIONプランニング



社外取締役  
田中 孝司



社外取締役  
**田中 孝司**

指名委員会委員長  
報酬委員会委員長

## 略歴

- 1981年 4月 国際電信電話株式会社 入社
- 2003年 4月 KDDI株式会社 執行役員 ソリューション事業本部  
ソリューション商品開発本部長
- 2007年 6月 同社 取締役執行役員常務 ソリューション事業統轄本部長
- 2007年 8月 ワイヤレスブロードバンド企画株式会社  
(現 UQコミュニケーションズ株式会社) 代表取締役社長
- 2009年 4月 KDDI株式会社 取締役執行役員常務  
ソリューション事業統轄本部担当
- 2010年 4月 同社 取締役執行役員常務 ソリューション事業本部担当 兼  
コンシューマ事業本部担当 兼 商品開発統括本部担当
- 2010年 6月 同社 代表取締役執行役員専務 ソリューション事業本部担当 兼  
コンシューマ事業本部担当 兼 商品開発統括本部担当、  
UQコミュニケーションズ株式会社 取締役会長
- 2010年 12月 KDDI株式会社 代表取締役社長
- 2018年 4月 同社 代表取締役会長(現任)
- 2018年 6月 沖縄セルラー電話株式会社 取締役(現任)
- 2021年 6月 当社 取締役(現任)



社外取締役  
**秋山 里絵**

監査等委員

## 略歴

- 1992年 4月 株式会社三和銀行(現 株式会社三菱UFJ銀行)入社
- 1999年 4月 弁護士登録(東京弁護士会)
- 1999年 4月 馬場法律事務所(現 馬場・澤田法律事務所)入所(現任)
- 2019年 6月 株式会社ゴールドウイン社外取締役(現任)
- 2023年 6月 当社 取締役(監査等委員)(現任)



# 最高経営責任者(CEO)のサクセSSIONプランニング

## CEOのサクセSSIONプランニング

候補対象者: 緊急時の後任、次期CEO候補者、次期以降の候補者

確認項目: 候補者の準備状況、各候補者の強み、開発すべき領域、育成プラン、想定される就任準備完了時期など

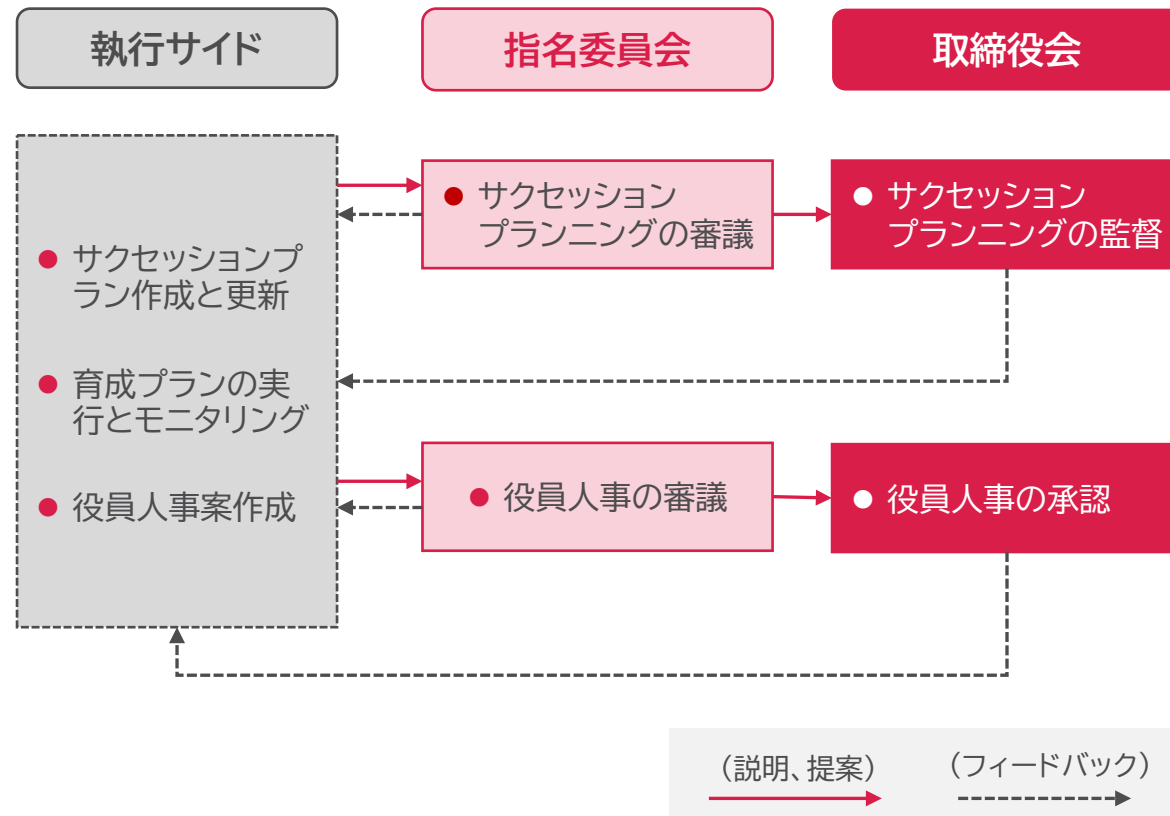
### 指名委員会

- CEO、その他のトップマネジメント等を対象としてサクセSSIONプランニングに関する審議を年1回以上実施し、後継者の選定の在り方や後継者候補の育成など、様々な観点から透明性と客観性の高い議論を行い、取締役会へ報告する
- 候補者の状況を適切に把握したうえで役員人事の審議を行い取締役会へ上程する

※ 指名委員会は、社外取締役を委員長とし、社外取締役4名で構成(2023年度現在)

### 取締役会

- サクセSSIONプランニングの状況について適切に監督を行う
- 役員人事に関する決定を行う



# 指名委員会における協議 事例：最高経営責任者（CEO）交代

社外取締役の視点、意見を取り入れながら、透明性と客観性のある審議を経てCEOを選任

## 次期CEO選任までのプロセス

- **2022年10月** サクセッションプランニングに関して、候補者の状況および各候補者の強みや育成状況等に関する丁寧な状況説明を前CEO安川から受け、審議を実施。その後取締役会に報告。また、今後の役員人事の構想に関する事前協議を実施
- **2023年2月** CEO後継者の決定に関する役員人事の審議にて、選任基準の観点および経営環境・経営戦略の観点から、現CEO岡村が最善の後継者であることを確認。取締役会で決議

新CEOのもと、後継候補者のアップデートを実施中

## CEO交代後

- **2023年6月** 新たに就任した現CEO岡村によりアップデートされた後継候補者に関して協議を実施。その後取締役会に報告
- **2023年12月** 従来の確認項目のアップデートに加え、トップマネジメントに求める主要なケイパビリティに対する各候補者の評価について現CEO岡村から説明を受け、協議を実施。その後、取締役会に報告



# APPENDIX

# サステナビリティ向上に向けた取り組み実績

## 1. 最先端の「価値」駆動型ライフサイエンス・イノベーターへの変革

アステラスの中期優先項目	2025年度までのコミットメント	主な指標	2023年度上期 実績
研究開発におけるFocus Areaアプローチにより科学の進歩を「価値」に変え、アンメットメディカルニーズの高い疾患の治療のための新しい治療法やモダリティを創出する	世界の患者さんや介護者の生活を改善し、ヘルスケアシステム全体の負担軽減に貢献する	INDを取得したプロジェクトの数	1プロジェクト
		新規に上市した製品数	2製品 (VEOZAH, IZERVAY)
<ul style="list-style-type: none"> <li>アステラスが創出するイノベーションへの患者さんのアクセスを最大化し、患者さんがより良いアウトカムを得られるようにする</li> <li>医薬品の枠を超え、新しいヘルスケアソリューションを開発し、事業化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>より多くの患者さんにアステラス製品へのアクセスを提供する</li> <li>疾病の認識、予防、ヘルスケアサービスへのアクセスを改善することにより、3,600万人以上(累計)にインパクトをもたらす</li> </ul>	多様な医薬品アクセスプログラムを通じて治療を受けた患者数	1,380人以上
		保健医療へのアクセス向上を支援するプログラムにより影響を受けた人々の数	4,000万人以上 (2018年から2025年度末までの累計見込み)
新しいモダリティの革新的な医薬品が世界の患者さんの健康に貢献し、持続可能なヘルスケアシステムを実現していくために、ステークホルダーに向けて価値に基づく価格設定をアドボケートする	価値に基づく価格設定をアドボケートし、ヘルスケアシステムの維持に貢献する	価値、アフォーダビリティ、アクセスの課題に対応するため、価値に基づく革新的な価格設定ソリューションが導入された数	5件
<ul style="list-style-type: none"> <li>アステラスにイノベーションを創出する環境を構築する</li> <li>イノベーションを促進する文化に支えられた、適切なケイパビリティを戦略と連動させる</li> </ul>	イノベーションを実現するための確かなケイパビリティを持つ人材と組織文化を醸成する	社長からの6階層以下の組織の割合	80%
		全組織のスパン・オブ・コントロールの平均値	6.0
		エンゲージメントスコア	71 (2023年10月時点、0-100、100が最高点)

IND: 治験許可申請

スパン・オブ・コントロール: マネジャー1人が管理する部下の人数

# サステナビリティ向上に向けた取り組み実績

## 2. 社会の期待に応える強靱で持続可能な事業活動の強化

アステラスの中期優先項目	2025年度までのコミットメント	主な指標	2023年度上期 実績
予測不能な事態や緊急事態においても製品を継続的に供給する強靱なビジネスを維持する	より持続可能で強靱なバリューチェーンを構築する	安定供給のための取り組み	シームレスな流通実現のために、サプライヤーやパートナーとの協力体制を強化
		地政学的課題に関する代替調達への準備の進捗(定性)	主要製品のリスクアセスメントを実施し、代替品の調達や在庫の積み増しを継続
製品の品質と安全性を保つためのケイパビリティをさらに高め、患者さんにとっての価値を最大化するために顧客との相互コミュニケーションを最適化する	「品質重視の文化」を醸成し、顧客体験を向上させることによって、製品の品質と安全性を確保する	商用生産施設における品質重視の文化についての評価	商用生産施設における品質重視の企業文化についてのスコアカード評価を完了(高岡、富山、高萩、焼津、ダブリン、ケリー、瀋陽)

## 環境のサステナビリティ向上

アステラスの中期優先項目	2025年度までのコミットメント	主な指標	2022年度 実績
温室効果ガス排出量をパリ協定と整合性のある目標に向け削減し、2050年までに温室効果ガス排出量のネットゼロを達成する	以下目標*に沿った適正な量の温室効果ガス削減を2025年度までに達成する  *2030年度までの温室効果ガス排出量削減目標 ・ スコープ 1+2 63%削減 (基準年:2015年度) ・ スコープ 3 37.5%削減 (基準年:2015年度)	GHG排出削減率(スコープ1+2) (基準年:2015年度)	41.8%
		GHG排出削減率(スコープ3) (基準年:2015年度)	1.8%

GHG (greenhouse gas): 温室効果ガス

## OHG浸透によるアウトカム②

### グローバル・エンゲージメント・サーベイ(2023年10月実施)

全体のエンゲージメントスコアと回答率は大きな変化なし。

改善すべき3項目のうち2項目でスコアが改善。引き続きエンゲージメント向上への取り組みを継続

#### エンゲージメントスコア:

**71** (±0)

回答率:  
**84%** (+2)

**51%**  
の設問への回答が改善

コメント数:  
**20,506件**

#### 私たちの強み

**82**

差別がない

お互いの違いを認め、補い合い、生かす風土

**78**

誠実さを重んじる文化

(+1)

常に誠実な選択と決断

**78**

成功への貢献

(+1)

自分の仕事と会社の成功の繋がりへの理解

#### 私たちの改善すべき点

**61**

アクションの実行

サーベイ結果から抽出した課題に対する対策の実行

**61**

ペイフォーパフォーマンス

(+1)

成果に応じた報酬

**59**

ホワイトスペース

(+2)

新しいアイデアを模索するために必要なリソース

# グローバル・エンゲージメント・サーベイ結果 - OHGの達成に向けて - OHG1「果敢なチャレンジで大きな成果を追求」

全てのスコアが2022年10月時点と比較して、増加、または横ばい

項目	スコアの変化 (2022年10月比較)	質問
リスクを取る	+2	私は仕事を遂行する上で、十分な情報に基づくリスクを取るよう奨励されている。
イノベーション	+2	自分のチームは高いレベルのイノベーションを実践している。
ホワイトスペース	+2	私たちには新しいアイデアを模索するために必要なリソース（時間、ツール、専門知識など）が与えられている。
私の心を話す	+1	私は自分が考えていることを報復を恐れることなく自由に話すことができる。
ミスからの学習	+1	私たちは失敗から学んでいる。
現状維持の打開	-	ここでのやり方について気兼ねなく意見を言える。
裁量性	-	仕事上で意思決定を行う権限を与えられていると感じる。
エンゲージメント	-	アステラス製薬で働いていることにどの程度満足していますか？ アステラス製薬を素晴らしい職場として推薦できる。
説明責任	-	私の職場では、各従業員が責任をもって仕事をしている。

OHGの達成に向けての2023年度の主要な活動は以下の通り

**OHG1**

組織の階層のフラット化、マネジャーケイパビリティ強化、White Space Trainingによる  
イノベティブな組織づくりの促進

## グローバル・エンゲージメント・サーベイ結果 - OHGの達成に向けて - OHG2「人材とリーダーシップの活躍」

全てのスコアが2022年10月時点と比較して、増加、または横ばい

項目	スコアの変化 (2022年10月比較)	質問
昇進ポリシー	+1	私は、アステラス製薬における私のような従業員に対する昇進の方針や制度を理解している。
上司	+1	私の上司を人に推薦できる。
キャリアパス	-	私の上司はキャリア形成における目標設定を手助けしてくれる。
模範	-	アステラス製薬の上級幹部は自らが模範となって皆を統率している。
成長の機会	-	アステラス製薬では学習や成長の機会に恵まれている。
強みの発揮	-	自分の職務では自分の強みを最大限に生かしている。
経営陣	-	私は経営陣を信頼している。
キャリア目標	-	私はアステラス製薬で自分のキャリア目標を満たせると思う。
フィードバック	-	私の上司は私の仕事ぶりがさらに良くなるように、パフォーマンスについてフィードバックをくれる。

OHGの達成に向けての2023年度の主要な活動は以下の通り

**OHG2**

簡素化されたコンピテンシー、サクセッションプラン、女性コネクト&リフトプログラムの強化などにより、人材開発に集中



# グローバル・エンゲージメント・サーベイ結果 - OHGの達成に向けて - OHG3「One Astellasで高みを目指す」

全てのスコアが2022年10月時点と比較して、増加、または横ばい

項目	スコアの変化 (2022年10月比較)	質問
コミュニケーション	+2	アステラス製薬は従業員と十分なコミュニケーションをとっている。
認識	+2	アステラス製薬のさまざまな部門の業務や活動内容を理解している。
リソース	+2	仕事をうまく進めるために必要なリソースが揃っている。
手順	+2	私の職場では、仕事がきちんとまとめられている（円滑なワークフロー、優れた方法と手順、生産的なミーティングなど）。
透明性 (コミュニケーション)	+1	アステラス製薬は率直で正直なコミュニケーションを行う。
コラボレーション	+1	アステラス製薬のチームは物事を為す上で効果的に協業している。
貢献度	-	自分の仕事がアステラス製薬の成功にどの様に貢献しているか理解している。
戦略	-	アステラス製薬では、目標を達成するための明確な計画が策定されている。
優先事項 - 上司	-	私の上司はチームが常に明確な優先事項に専念できるようにしている。

OHGの達成に向けての2023年度の主要な活動は以下の通り

**OHG3**

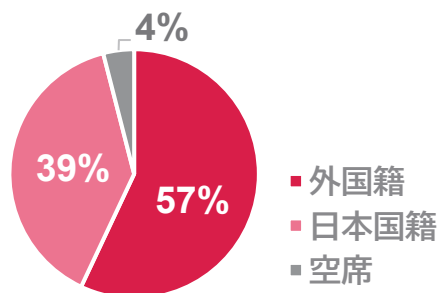
CxOによるAsk Me Anythingの継続実施、グローバルレコグニションプログラムの導入などの施策の実施

# サクセッションプランニング - サクセッサーのダイバーシティ進捗 -

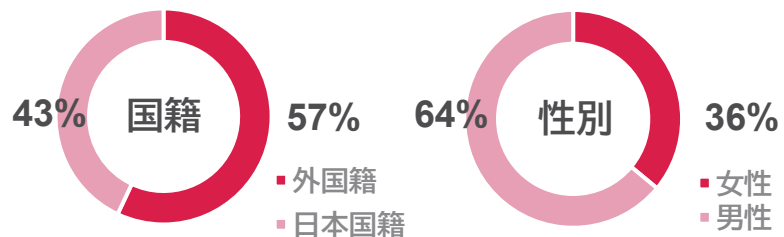
昨年度から引き続き、ダイバーシティに富んだサクセッサー比率を維持

## 2022年度

部門長クラス ポジション: 合計178ポジション

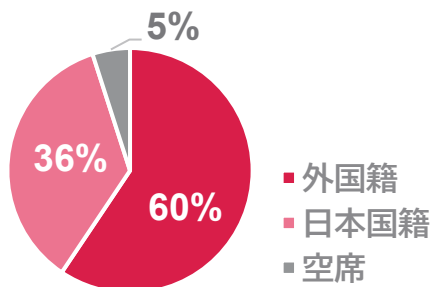


サクセッサー: 合計522人

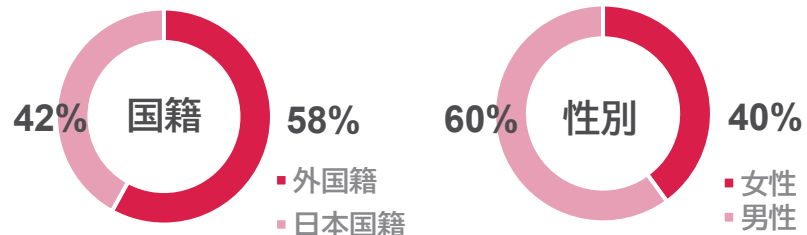


## 2023年度

部門長クラス ポジション: 合計193ポジション



サクセッサー: 合計553人



## 強化ポイントとアクション

### ➤ 強化ポイント

- 内部タレントの育成
- 外部タレントの採用
- 部門長クラスの女性比率の向上

### ➤ アクション

- 社内公募を活用した内部登用を促進
- エグゼクティブ・コミッティ、部門間レビューでのタレントの露出の向上
- 外部タレントを早い段階で採用し、社内で育成してからのシニアポジションへ登用
- 女性タレントへの研修実施

# 生物多様性への取り組み

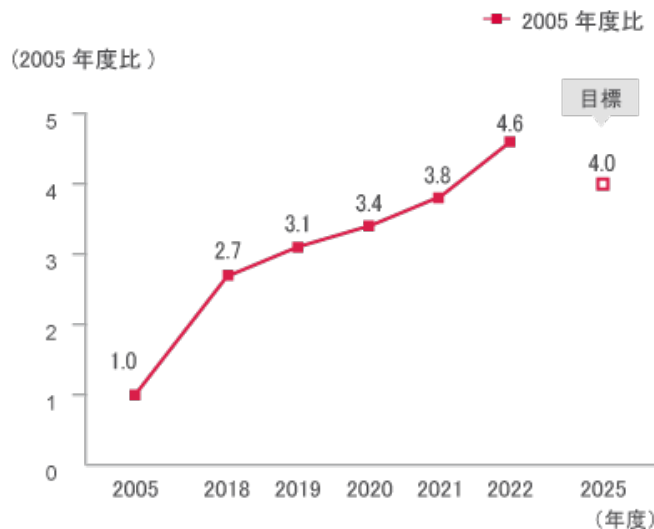
## 生物多様性に関する基本的な考え

- 生物の多様なつながりがもたらす恩恵に感謝し、すべての事業領域で事業活動が生態系に及ぼす影響を把握し、その低減に努めることにより、生物多様性の維持・保全に積極的に貢献
- 生物多様性の劣化をもたらす危機を環境汚染、資源消費、気候変動に分類し、生物多様性への影響を評価(生物多様性指数\*)

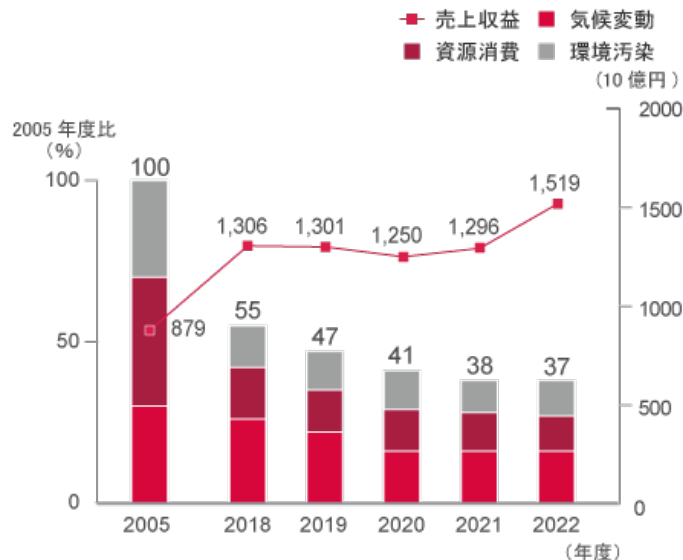
## 生物多様性に関する環境行動計画

- 生物多様性指数を2025年度までに、2005年度の4倍に向上 (グローバル)

生物多様性指数の推移



生物多様性負荷指数と売上収益の推移



$$* \text{生物多様性指数} = \frac{\text{評価年度連結売上収益}}{\sum \left( \frac{\text{評価年度負荷量}}{\text{基準年度負荷量}} \times \text{ウエイト} \right)}$$

大分類	指標	ウエイト(%)
環境汚染	NOx, SOx 排出量	10
	化学物質排出量	10
	BOD, COD排出量	10
	(小計)	(30)
資源消費	水使用量(グローバル)	20
	生物起源の原材料使用料	10
	廃棄物最終処分量	10
	(小計)	(40)
気候変動	温室効果ガス排出量(グローバル)	30
	(小計)	(30)
合計		100

1. Williams RE, Kalilani L, DiBenedetti DB, Zhou X, Fehnel SE, Clark RV. Healthcare seeking and treatment for menopausal symptoms in the United States. *Maturitas*. 2007;58:348-58.
2. Hunter MS et al. Prevalence, frequency and problem rating of hot flushes persist in older postmenopausal women: impact of age, body mass index, hysterectomy, hormone therapy use, lifestyle and mood in a cross-sectional cohort study of 10,418 British women aged 54-65. *BJOG*. 2012. 119 (1):40-50.;
3. Nappi RE, Kroll R, Siddiqui E, et al. Global cross-sectional survey of women with vasomotor symptoms associated with menopause: prevalence and quality of life burden. *Menopause*. 2021;28(8):875-882
4. DePree B et al. Association of menopausal vasomotor symptom severity with sleep and work impairments: a US survey. *Menopause: The Journal of The North American Menopause Society* Vol. 30, No. 9, pp. 887-897
5. Sarrel, P. , Portman, D. , Lefebvre, P. , Lafeuille, M. , Grittner, A. M. , Fortier, J. , Gravel, J. , Duh, M. S. & Aupperle, P. M. (2015). Incremental direct and indirect costs of untreated vasomotor symptoms. *Menopause*, 22 (3), 260-266. doi: 10.1097/GME.0000000000000320.
6. Astellas' press release: <https://www.astellas.com/en/news/27756>
7. Fezolinetant for Treatment of Moderate-to-severe Vasomotor Symptoms Associated With Menopause (SKYLIGHT 1): a Phase 3 Randomised Controlled Study , Samuel Lederman, Faith D Ottery, Antonio Cano, Nanette Santoro, Marla Shapiro, Petra Stute, Rebecca C Thurston, Marci English, Catherine Franklin, Misun Lee, Genevieve Neal-Perry, *Lancet*. 2023 Apr 1;401(10382):1091-1102. doi: 10.1016/S0140-6736(23)00085-5, PubMed: [https://doi.org/10.1016/S0140-6736\(23\)00085-5](https://doi.org/10.1016/S0140-6736(23)00085-5), PMID: 36924778
8. Efficacy and Safety of Fezolinetant in Moderate-to-Severe Vasomotor Symptoms Associated With Menopause: a Phase 3 RCT, Kimball A. Johnson, MD, Nancy Martin, MD, PharmD, Rossella E. Nappi, MD, PhD, Genevieve Neal-Perry, MD, PhD, Marla Shapiro, CM, MDCM, Petra Stute, MD, Rebecca C. Thurston, PhD, Wendy Wolfman, MD, Marci English, MPH, Catherine Franklin, BS, Misun Lee, PhD, Nanette Santoro, MD, *J Clin Endocrinol Metab*. 2023 Feb 3;dgad058. doi:10.1210/clinem/dgad058doi/10.1210/clinem/dgad058, PubMed: <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/36734148/> PMID: 36734148
9. Fezolinetant for treatment of moderate-to-severe vasomotor symptoms associated with menopause: analysis of health-related quality of life from the SKYLIGHT 1 and SKYLIGHT 2 studies, Antonio Cano, Rossella E. Nappi, Petra Stute, Martin Blogg, Marci English, Antonia Morga, Ludmila Scrine, Emad Siddiqui, Faith D. Ottery, presentation at IMS, October 2022
10. Treatment of moderate-to-severe vasomotor symptoms associated with menopause with fezolinetant: pooled responder analysis from SKYLIGHT 1 and SKYLIGHT 2 (Encore of IMS 2022 presentation), Rossella E Nappi, Kimball A Johnson, Petra Stute, Wendy Wolfman, Martin Blogg, Marci English, Antonia Morga, Ludmila Scrine, Emad Siddiqui, Faith D Ottery, 14th European Congress on Menopause and Andropause (EMAS); May 3-5, 2023; Florence, Italy
11. Understanding Attitudes, Beliefs, and Behaviors Surrounding Menopause Transition: Results From Three Surveys, Gloria Richard-Davis, Andrea Singer, Deanna D. King, and Lisa Mattle, *Patient Relat Outcome Meas*. 2022 Dec 14;13:273-286. doi: 10.2147/PROM.S375144, PubMed: <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/36540377/> PMID: 36540377